

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構支出点検プロジェクトチーム  
平成21年度取組目標

1. 平成21年度予算の執行段階における無駄削減

平成21年度予算の執行段階において無駄の削減に資する以下の取組を行う。  
なお、効率化対策委員会（平成18年度設置）において、既に実施中の事項もあることから、それぞれ連携を図りつつ実施する。

(1) 公共調達適正化

- ① 契約は一般競争入札を原則とし、競争性のある契約方式によることとする。  
なお、随意契約によらざるを得ない場合には、引き続きその理由等を公表する。
- ② 公益法人への支出については、“対平成18年度支出実績比3割削減”を確実に実施する。
- ③ 1者応札割合の改善を図るため、その方策として、競争性の確保、応札しやすい環境の整備、契約の透明性・公平性の確保等について定めるとともに実施に努める。

(2) 物品・役務契約の効率化等

効率化対策委員会の策定した「21年度効率化実行計画」を確実に実施する。

(3) タクシー代の節減

タクシーの使用については、適正な執行に努め、節減を図る。

(4) その他

無駄の削減に資する事項について、役職員からの提案等も受け、支出点検プロジェクトチームにおいて検討し、速やかな実施を図る。

2. 平成21年度の予算執行状況の点検及び平成22年度執行予算への反映

平成21年度の予算執行状況を点検するとともに、点検結果を踏まえ、平成22年度執行予算に反映させる。

3. 外部機関からの指摘に対する対応

会計検査院からの指摘、農林水産省独立行政法人評価委員会及び政策評価・独立行政法人評価委員会からの指摘事項等については、速やかに対応するとともにフォローアップを行い、必要に応じ、平成22年度執行予算に反映させる。

4. 役職員一人一人の意識改革

これまでも効率化対策委員会でも実施してきたところであるが、更に、各種研修の機会を捉えて、効率的な予算執行・無駄の削減への取組に対する周知と職員の意識の向上を図るほか、有効な研修に職員を参加させる。

参考1 1者応札の改善方策については別途公表：「1者応札となった契約の改善方策について」  
<http://www.naro.affrc.go.jp/raise/pdf/1bid.pdf>

参考2 各年度における効率化実行計画の代表的な改善効果（削減結果）については、業務実績報告書で別途公表

18年度 [http://www.naro.affrc.go.jp/information/03business/pdf/gyomu\\_hokokusho18.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/information/03business/pdf/gyomu_hokokusho18.pdf) 247 ページ、

19年度 [http://www.naro.affrc.go.jp/information/03business/pdf/gyomu\\_hokokusho19.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/information/03business/pdf/gyomu_hokokusho19.pdf) 276 ページ、

20年度は、主務大臣承認後（21年9月頃）公表予定。